乳児期の栄養と身体発育，精神発達及びアレルギー疾患の発生との関連に関する研究

独協医大　橋口精範

研究の目的：

われわれは乳児期の栄養法が，その後の身体発育，精神発育に如何なる影響があるかということについて検討をすすめることにした。また新生児には授乳中の母体から薬物の移行があるのだろうか，とくに抗生物質についてみることにした。また，授乳と月経再潮との関係についてもしらべてみた。

方法と成績：

(1) 先ず基礎となるべき乳児栄養法について，栃木市周辺の実態を調査し，これまでに調査した東京における成績とも比較することにした。（日本母性衛生学会総会発表昭和50年9月発表）268名についてみたが，母乳栄養児は生後半月で40.3%，1カ月で37.1%，2カ月で30.4%，3カ月で31.6%と減するのに対して，人工栄養児は半月で36.4%，1カ月で42.7%，2カ月で52.0%，3カ月で51.9%を占めていた。全く母乳のみというものは，半月で24.5%，1カ月で21.9%，2カ月で24.8%，3カ月で25.9%のみであった。

これらの乳児の身体発育，精神発育を follow up していきたいと思っている。

(2) 乳児の健康と乳児の栄養法についてみると，少数例であるが，傾向として人工栄養児よりも母乳栄養児は，消化器系疾患，感冒にかかるものが少ないことがみられる。

(3) 母体に薬物を投与した場合，母乳を通してその乳児に移行があるか，種々の薬物についてみているが，今回はcepalosporin系製剤cefatezolについてみた。（日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会　昭和50年10月発表），測定は bacillus subtilis ATCC 6633 を指定菌とした薄層 disc 法で行った。乳汁への移行は一般に乏しい，一部血中濃度の高いものに痕跡的に移行がみられた位である。つまり新生児への移行を考慮しなくてよいと考えられる。

(4) 乳児栄養法と母体月経の再潮は，31～60日であったものでは，母乳栄養3.7%，人工栄養85.2%，61～90日であったものは，母乳栄養13.3%，人工栄養73.3%，90日以後もあったものでは，母乳栄養50.0%，人工栄養28.5%をしめていた。つまり母乳栄養児の母親の再潮はおそいことがわかる。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究の目的:

われわれは乳児期の栄養法が, その後の身体発育, 精神発育に如何なる影響があるかということについて検討をすすめることにした。また新生児には授乳中の母体から薬物の移行があるのだろうか, とくに抗生物質についてみることにした。また, 授乳と月経再潮との関係についてもしらべてみた。